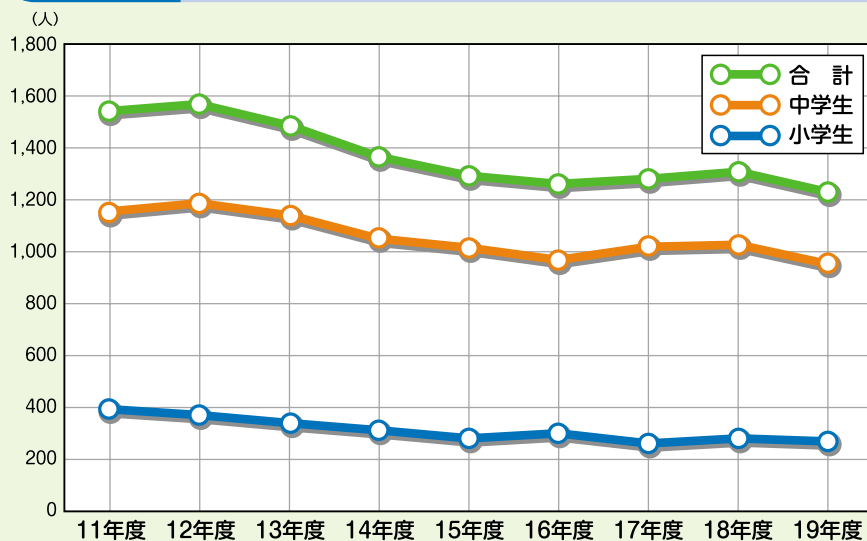
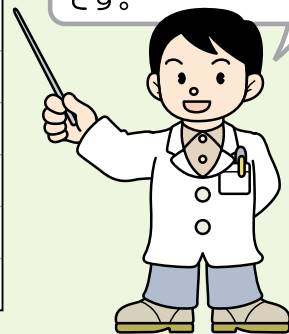


1 小・中学生の不登校の実態

資料1 不登校児童生徒の推移 〈本県（公立小・中学校）〉



平成19年度の不登校児童生徒数は、81名減少しましたが、依然として大きな課題です。



(人)

| | 11年度 | 12年度 | 13年度 | 14年度 | 15年度 | 16年度 | 17年度 | 18年度 | 19年度 |
|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 小学生 | 395 | 373 | 346 | 314 | 280 | 297 | 265 | 281 | 272 |
| 中学生 | 1,150 | 1,198 | 1,138 | 1,051 | 1,014 | 968 | 1,021 | 1,030 | 958 |
| 合計 | 1,545 | 1,571 | 1,484 | 1,365 | 1,294 | 1,265 | 1,286 | 1,311 | 1,230 |

資料2 不登校のきっかけ

不登校であった生徒の声

- ① 友人関係をめぐる問題 45.0%
- ② 学業の不振 27.9%
- ③ 教師との関係をめぐる問題 21.0%
- ④ 部活動への不適合 16.7%
- ⑤ 入学・転校・進級時の不適合 14.4%
- ⑥ 病気による欠席 13.4%
- ⑦ 親子関係をめぐる問題 11.5%
- ⑧ 特に思いあたることはない 11.0%

(複数回答)

平成5年度に「学校ぎらい」を理由に年間30日以上欠席し中学校を卒業した者を対象に、文部科学省が研究グループ「現代教育研究会」に委託を行い、平成13年度に追跡調査した結果を公表しました。

資料3 効果的な学校の措置

- ① 家庭訪問を行い、学業や生活面での相談に乗るなどの指導・援助を行った。
- ② 登校を促すため、電話をかけたり迎えに行ったりなどした。
- ③ 保護者の協力を求めて、家族関係や家庭生活の改善を図った。
- ④ スクールカウンセラー等が専門的に指導にあたった。
- ⑤ 保健室等特別の場所に登校させて指導にあたった。
- ⑥ 不登校について、研修会や事例研究会を通じて全教師の共通理解を図った。



先生方ががんばりが、効果を上げています。

(「平成19年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」より)